

Richesse

リシェス

25ansを極めたハイエンドマガジン
FG MOOK

no.5
FALL ISSUE

JFK

没後50周年記念

ケネディ家、カリスマの系譜

FASHION & JEWELRY

服と小物のセットが新しい

この秋は「お揃いワードローブ」

遊び心あるデザインを選んで

ブローチを装いのスパイスに

BEAUTY

そろそろ定額を見直すとき

クオリティで選ぶ、大人の香り

INTERVIEW

無限の愛を描く、前衛芸術家

草間彌生インタビュー

LIFESTYLE

最新グルメから注目のスポットまで

葉山ソサエティの豊かな週末

資産運用/英才教育/最先端美容…トップレベルの富裕層が集う

世界一豊かな小国、スイス

Ultimate Swiss Wealth



A Beautiful Home on Lake Geneva

高天井の開放感と、天井の梁が主役のデザインに、ソファは、この家の歴史も手掛けるという、一級建築士・デザイナーの作品。高天井の開放感と、天井の梁が主役のデザインに、ソファは、この家の歴史も手掛けるという、一級建築士・デザイナーの作品。

インテリアデザイナーの ダルガー夫人が造った理想の家

理想の立地に、その土地の魅力を引き立てる理想の家に住む。
富裕層でも憧れるライフスタイルを実現したダルガー夫妻の邸宅。



〈下〉リノベーションの際、唯一残ったのが、この紋章入りの古い鉄製の暖炉。「この家の思い出に残しました」。〈中〉大サロンで寛ぐセシル・ダルガーさん。〈左上〉大サロンには中二階も。改築以前は吹き抜け構造ではなかったそう。



Madame Cécile Demole

セシル・ダルガーさん

ご主人はスイス人で、代々金融関係の会社を営む家柄の出身。自身の会社経営のほか、アフリカの母子を助けるAMREF、子どもたちをインターネットによる害から保護するACTION INNOCENCEなどのチャリティ活動にも熱心です。

レマン湖に臨む2ヘクタール敷地のなかで、最も見晴らしの好い高台に建てられたセシル・ダルガーさんの邸宅。緑に溢れる広大な見下ろせば、その先には青い湖と、対岸には白銀のモンブランが輝いています。

取材班を迎えてくださったのは、セシル・ダルガーさん。シャネルのジャケツに、ジュアルに着こなした魅力的な女性。挨拶を済ませ、この素晴らしい立地への感激を伝えると、「住む国や土地は、人の心を造ります。だからこの美しいジブリは、特別に清らかなんです」と、この地に魅せられた人らしい素直なお答えが。

フランス出身のセシルさんは、ランスとロンドンで教育を受けた。高級化粧品会社のジェネラル・マネージャー職を経て、スイスで主人と結婚された現在は、インテリアデザイナーとして「ドール」という自身のインテリア関連会社を営んでいます。

「スイスは小さいけれど、ヨーロッパの中心にありながら、ヨーロッパに属さない、他国から一目置かれる存在です。さらにはニュートラック位置と、古くからの伝統を重んじた特別な国でもあります。 무엇보다、安全なのが魅力です。セシルさんのように国際的なスをもつ人たちが、富裕層をきつけるスイスの魅力をこう語ってくださいました。



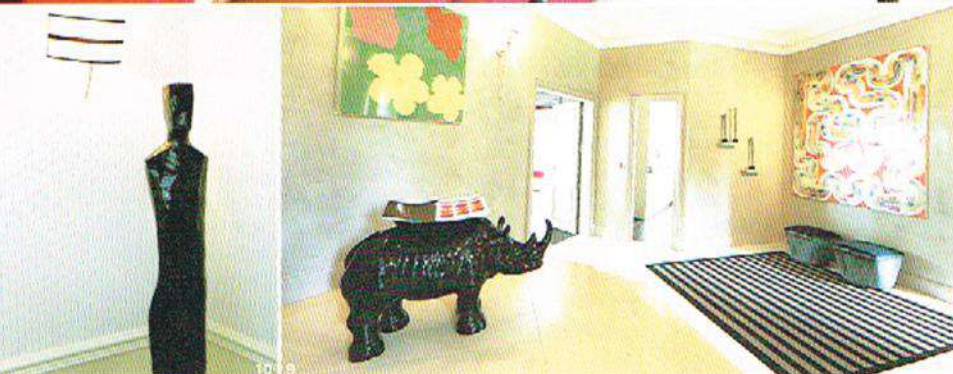
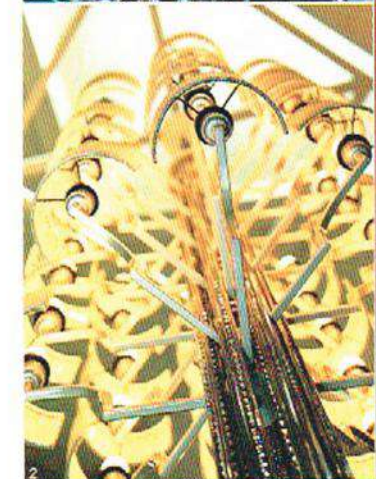
コンテンポラリーアートは洗練されたインテリアに不可欠

世界のどこでも、今やコンテンポラリーアートは洗練されたインテリアに不可欠。もちろんここスイスでも、シックで重厚な邸宅に華やかさを添えています。

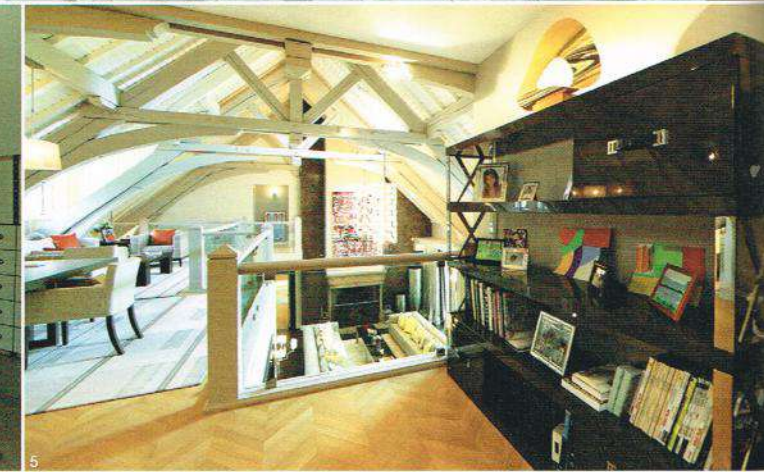
13歳でホームデザインに目覚めたというセシルさん。28歳でインテリアスクールに通い、10年前に自身のインテリア会社を設立しました。1981年に建てられたこの邸宅を2年前、9月かきフルリノベーション。セシルさんの美意識が随々にまで行き届いた。作品の域にまで仕上げました。現在でも年に2回、インテリアのカラリングを企画。取材時の大サロンは春夏の色合いですが、10月には冬を意識したパープル系に統一するそうです。

こうしたこだわりの華やか洗練を添えているのが、家中に配されたコンテンポラリーアートの数々。ウォールや床に上陸などの有名作家だけでなく、スイスの現代作家などからも独自の審美眼で選り抜かれた数々の作品が、インテリアとセンスよく融合しています。さらには、ほとんどの照明器具はセシルさんがデザインし、独自にオーダーしたものというから驚きです。これだけのこだわりを發揮したからこそ、完成度なのです。

イタリアのインテリアブランド「ヴィジョネア」は、セシルさんの大のお気に入り。ティエゴットとカッパ・ソーラーを模した、ユニークなシェンデリアは家族用のリビングに。2. 大サロンのシェンデリアとウォールランプは「パトリシア・ガルゴニティ」にオーダー。3. 大サロンの横にあるライブラリーの、エレガントなウォールランプ。6. 中二階の下にある、黒を基調にしたシックなライブラリー。黒のソファと、イタリアの画家ウィクトール・ヴァッレリ



for Family



一方、家族用のプライベートスペースには、美しさがなかに優しさが漂います。フューシャビクでまとめられたファミリー・サロンは、すべてセシルさんがデザイン。「ヴィジョニア」製のポットとカップ・ソーサーを模したシャンデリアがウィットを添えています。大サロン脇の中二階も、ファミリー用のス

ペース。リラックスした雰囲気、椅子やソファは「エルメス」です。
ダルガーさん夫妻が使用するマスター・ベッドルームのテーマは「旅」。スペインの「コレクシオン・アレクサンドラ」に特注したクローゼット・ワードローブは、山のように積み重ねられた旅行用ラゲッジのイメージです。

4 家族用ダイニングに続くファミリー・サロンは、優しい雰囲気にも包まれています。5 玄関から階段を上った中二階は、家族用のスペース。写真左のラウンジには、「エルメス」の椅子やソファが気軽に配されています。6 マスター・ベッドルームの、箱のハンドルのような取っ手が重なるさまは、ラゲッジを山のように積んで旅した古き良き時代を思わせます

モダン&シックで
居心地の良いスペースのかずかず

for Guest



1 端正な印象のゲスト用ダイニングは、改築時に壁を残し天井を作り替えた。ダイニングテーブルは「ヴィジョニア」製。2 コーヒー・スペースの小さなサロン。ソファのファブリックはイタリアに特注。クッションはフランスの「ギャザモン」製。フランスの「ウレ」製高級リボンをあしらって。3 英国の図書館をイメージしたゲスト用ベッドルーム

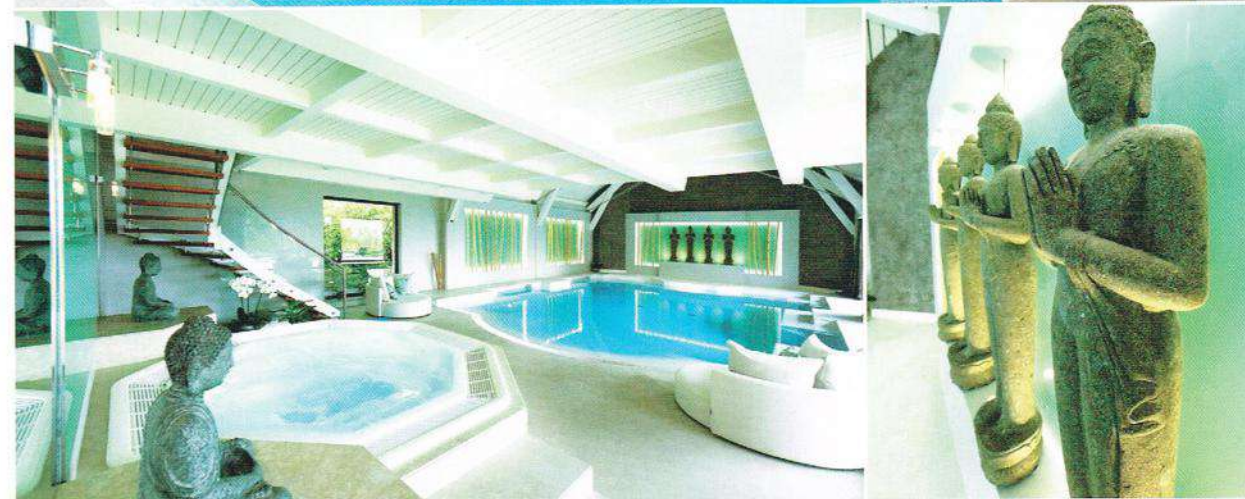
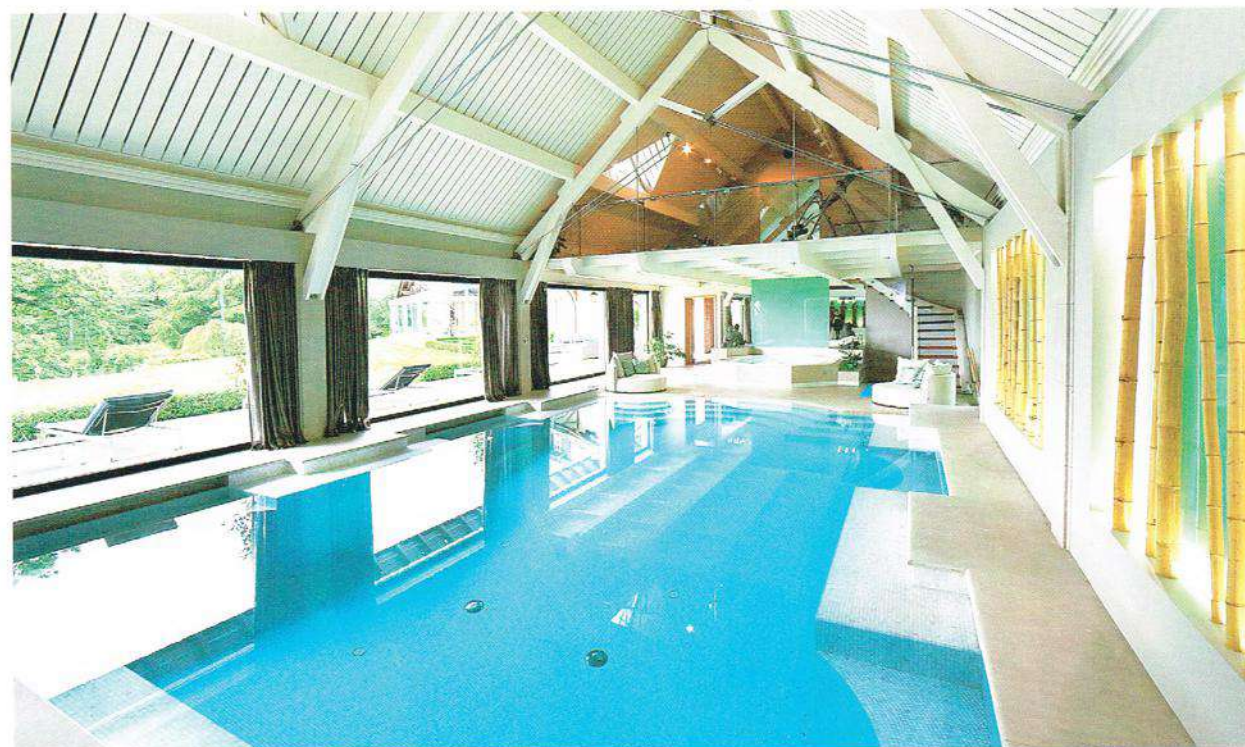
金融業に携わるご主人の仕事関係もあり、時には100人から150人ものゲストを招いての、大パーティを催すこともしばしばというセシルさん一家。ワインの聖地、ブルゴーニュから移築したという自慢のワインカーヴも、このパーティの後は空になるそうです。そこまで大規模ではなくても、頻繁に訪れ

るゲスト用にダイニング、サロン、寝室などが家族用とは別にあつらえられています。
ゲスト用ダイニングの椅子はセシルさんのデザイン。スクエアなフォルムの高い背もたれが、フォーマル感を演出します。サロンには飲食もできるよう、バーカウンターを設置。多様な形のおもてなしを想定しています。



DÔME ドーム

セシルさんが経営するインテリア関連の会社。
スイスをはじめコートダジュール、ロシア、アラブ諸国など
世界の富裕層を顧客にもつ。
「クライアントの考えを尊重し、プロポーザ(提案)はしますが、
インポーザ(押しつけ)はしません」とセシルさん。
<http://www.dome.ch/>
☎+41-(0)22-7470
Chemin du Triangle 6
1295 Mies Switzerland



アジアンテイストを取り入れた 個人宅とは思えない広々とした室内プール

個人宅に室内温水プールが、しかもレマン湖ビュー付きで存在する。
豊かなスイスでもほとんどなさそうな贅沢が、この邸宅にはありました。

1 大邸宅のいちばん奥まった場所にある室内プール。その脇にはジャグジー、中二階にはプライベート・ジムを設置。庭に面した大きな窓からは、明るい日差しと共にレマン湖の眺めが楽しめます。2 石仏は、バリ島のデンパサールから輸入したもの。その総重量は1.5トンという、大プロジェクトでした。3 ジャグジーのあるサイドから眺めたプール。仏像と竹材を効果的にあしらひ、北国を思わせる切り妻屋根の空間に、エキゾチックなアジアの雰囲気は上品に醸し出しているのがさすが

このプールにも反映されているように、セシルさんのインテリアへのこだわりは、対照的な要素をミックスすること。この邸宅でも、あらゆる部分にクラシックとコンテンポラリーをミックスさせていました。世界中の素晴らしい文化を見極めながら、バランス良く自身に取り入れ、オリジナルへと融合・昇華していく。そんなセシルさんの創作へのスタンスには、大団に開かれた多文化国家であるスイスという国の在り方が重なるようにも見受けられます。

この大邸宅を訪れて真っ先に気づくのは、どの部屋にも自然光がたっぷり入ること。明るい時間が長く続くスイスの夏には、とても贅沢なひとときを過ごすことができます。さらに極め付きの贅沢が、個人宅とは思えないほど広々とした室内プールです。世界中で流行している日本の「禅」のムードを取り入れ、アジア・インスピレーションに溢れた空間は、まるで一流ホテルのスパのよう。セシルさんいわく、ピース・オブ・アート。がテーマで、冬は雪のレマン湖を眺めながら、温水プールとジャグジーで寛ぎます。と、冬にもまた、贅沢なひとときを過ごしています。